

2020年6月6日(土)

老球の細道547号

新入生への「ピグマリオン効果」

バスケットボールコーチ 室井 富仁

ギリシャ神話の伝説の中に、キプロス島の王様が象牙で作った女像に恋をして、その女像が自分の妻であればと強く願ったところ、神がその像に生命を与えて王様の妻とさせたという話がある。そこから、想いや願いが強ければ強いほどその通りになっていくことを、キプロス島の王の名前をとって「ピグマリオン効果」と心理学で名づけられた。教育界やスポーツ界などで人を育てるときに利用されている。

神話の中のことなので神がかり的な話であるが、人は自分の夢や目標に対して、それを実現したい願い、想いが強くなればなるほど、それに見合うだけの努力をするようになる。その結果、自ずと良い結果が現れるようになる。努力は嘘をつかない。それが他人から自分にかけられる願いや想いだったらなおさらがんばるだろう。

私が今まで関わった生徒の中にも、私のピグマリオン効果が表れていたのではないだろうかと思われる例も多かった。あくまでも私の主観であるが……。入学、入部したての頃はごく普通の選手であったのが、私が「……のような選手になってほしい!」「あなただったらきっとなれるはずだ!」と、毎日のようにその選手に向かってピグマリオン光線を浴びせかけた。すると、私のその熱い想い、願い、期待が選手に伝わり、選手は期待に応えようと本気になって努力した。その結果、その選手は私の期待した通りの選手に成長してくれた。もちろんすべてがそうなったわけではないが、そうならなかった原因は常に私にあったと思われる。それは「私の選手に対する想い、願いが弱かった」「私が選手から信頼されていなかった」からである。

ようやくすべての学校が平常通りスタートした。来週からは念願の部活動の公式練習が認められる。コロナ対策としてまだ色々な制限はあるにせよ、本格的に新年度の部活動がスタートすることは喜ばしいことである。残念なことに3年生の活躍する場面が少なくなってしまったが、新入生にとってはこれから「新しい部活動生活」が待っている。ミニバスや中学校で活躍した子どもたちがどここの学校に進学して部活動を続けているのか、会津地区外の学校に進学した子供たちはどれくらい活躍できるのか、私の興味関心は尽きない。

各学校に入学したバスケットボール選手たちは、大多数は普通の選手である。これらの普通の選手たちを、これからどのように成長させて「グッドプレイヤー」から「グレートプレイヤー」に育て上げるかはコーチの仕事であり、コーチの醍醐味でもある。

人は期待され、信頼されることでがんばる。その源泉は親のみならず指導者にもある。指導者はそのプロセスの中で、選手に何度となく期待、信頼を打ち砕かれても、あきらめることなく、選手に対する願いや想いをもち続ける粘り強さが必要である。私は顧みるとそれが不足していた。選手の可能性は未知数である。指導者しだいで夢は昼も開く。